



はたらくネット

平成24年3月

はたらくみなさんに
聞きました!

編集・発行 仙台市障害者就労支援センター

あなたにとって「はたらく」とは?



障害のある方を雇用している企業の方、働いている障害のある方、障害のある方の就労支援をしている職員の方、それぞれに「はたらく」とは何かを聞いてみました。



《新しい自分とみんなを探す旅》

スリープロエージェンシー株式会社

齋藤 優輝さん

仕事をする前とは違う新しい自分探していきたい(スキルアップすることも含めて)。そして、一緒に仕事をするみなさんの新しい一面も探していきたい。

《通過点~色々な希望を見いだすために》

スリープロエージェンシー株式会社

佐藤 学さん

どんどん前に進むため、新しいことをするための「通過点」。

《チャレンジ 日々の積み重ね!!》

スリープロエージェンシー株式会社

佐山 修基さん

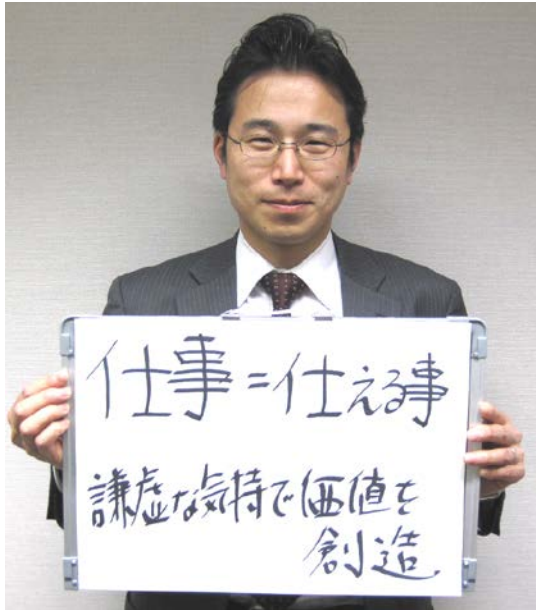
社員それぞれの「マイバリュー」というのがあり、私は「challenge by challenged」。障害があっても、常に挑戦をしていくことをモットーに仕事をしています。

2ページへつづく→

目次：あなたにとって「はたらく」とは?	・・・ 1～2ページ
企業に聞きました「スリープロ株式会社、スリープロエージェンシー株式会社」	・・・ 3～4ページ
クローズアップおっきな輪 「スイッチ・センダイ」	・・・ 5ページ
〈求職中の方へ〉〈就労支援をしている方へ〉〈雇用を考えている企業の方へ〉	・・・ 6ページ
〈市民のみなさんと一緒に考えます〉	・・・ 7ページ
仙台市障害者就労支援センター利用案内	・・・ 8ページ



あなたにとって
「はたらく」とは？



《自分らしさ》

スイッチ・センダイ

所長 小野彩香さん

自分のプライベートを含めた未熟な経験が、すべて活かされ、凝縮していると思えるのが仕事です。対人援助という職人仕事のために、必要な経験だったんだと思えるようになりました。

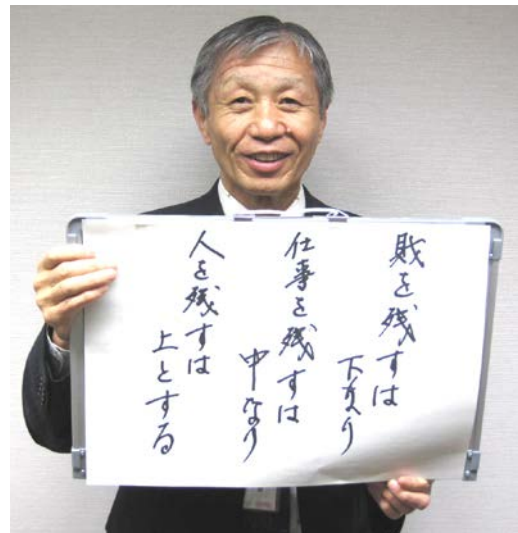
《仕事=仕える事 謙虚な気持ちで価値を創造》

スリープロ株式会社 中部東日本営業本部

取締役 営業本部長 森 俊介さん

結論は「価値を創造すること」です。

その際に「仕える気持ち」「貢献する気持ち」を忘れないようにしたいと思います。



《財を残すは下なり 仕事を残すは中なり 人を残すは上とする》

スリープロエージェンシー株式会社

代表取締役 稗貫 繁さん

「財を残すは下なり」—仕事をすれば給与が入ってくる。それは当たり前のこと。

「仕事を残すは中なり」—これも仕事をしていれば当たり前のこと。

「人を残すは上とする」—人を育てることは一番大事なこと。将来の会社またその人個人にも良い。

野村元楽天監督の言葉でとても好きな言葉です。

みなさんの「はたらく」とは？ 一人ひとり違いますね。次号も、様々な方にこの質問を投げかけていきます。

企業に聞きました！



(写真上から)

□スリープロ株式会社 中部東日本営業本部
取締役 営業本部長 森俊介(もりしゅんすけ)様

□スリープロエージェンシー株式会社
代表取締役 稗貫繁(ひえぬきしげる)様

(取材日 平成24年3月)

平成22年4月、特例子会社「スリープロエージェンシー株式会社」を立ち上げ、就労移行支援事業所ウイングル仙台泉センターより障害のある方3名を雇用したスリープログループ。

スリープロ株式会社 中部東日本営業本部 取締役 営業本部長 森氏とスリープロエージェンシー株式会社 代表取締役 稗貫氏に障害のある方の雇用を開始するまでの経緯や雇用開始後の状況などについてうかがいました。

スリープログループの事業概要

人材会社。主に委託業務を行なっている。代表的な業務は、住民票や印鑑証明等の登録発行業務、情報機器の保守管理、家電量販店等での販売支援事業等、その他にも様々な業務を行なっている。

— 障害者雇用を始めたきっかけはありますか？

森 自然な流れです。雇用はかなり前からしていました。

ただ、法定雇用率には達していなく、納付金を払うという選択もあったのですが、「会社として社会的責任を果たそう」という気宇が生まれ、特例子会社を積極的に行うこととなりました。

— 不安やとまどいはありませんでしたか？

森 ないです。障害のある方の雇用に対して、難色を示す会社があることを最近知りました。

基本的に難色を示すということではなく、むしろ「それが役に立つなら良いのではないかと」。

当社が人材派遣会社をやっている色々な人と関わる仕事なので、その人の背景や考え方を受け入れる体制が会社の中でできていたんだと思います。

なので、「障害がある」「国籍が日本じゃない」等が何かの理由になるということにはなかったです。

— 雇用をするにあたって社内整備はしましたか？

森 はい。一つは業務環境。

「音」に配慮し、まずは静かな環境で業務ができるように整備を行いました。

もう一つは一人一人に責任を持っているマネージャークラスを対象に研修を行いました。

「意識してあげる障害のある方」というのがあると思うんです。例えば発達障害、自閉症があるとか。

「こういう特性があって、こういうことをやったりするかもしれない。でもそれは仕事が嫌だ、やりたくないという意味の表明ではなく、あくまでも障害特性。そして、表現形態は無限。一般的に発達障害が持っている特性はこうですよ」等の内容です。

それぞれのプライバシーというのもあるので、全員を対象にはなくマネージャークラスを対象としました。

もし、苦情等があればマネージャーに必ず上がってくる。

そのときにマネージャーがきちんと説明できるようにしたのです。

— 仕事をしているのエピソードはありますか？

森 彼らの将来を考え、様々な能力を身につけてほしいと思いました。仕事の能力をあげていかないと仕事の喜びというのは生まれてこないだろうということから、今年に入る前くらいから「仕事の質を変えていきますよ」「新たな仕事をやってもらいますよ」と前置きをしながら、少しずつ仕事を増やしています。

少し不安はありましたが、すぐにできるようになりました。

彼らの能力というのは非常に高いケースが多く、一旦教えたならば、きちっとやっていけるようになります。

ただ同じ仕事をやらせるというのではなくて、可能な方には新たな仕事をさせてあげて、「自分たちが貢献しているんだ」「仕事の能力があがっていったるんだ」と感じてもらえるような形で、障害者の就業を支援していく余地がいっぱいあると思っています。

稗貫 森取締役が彼らとコミュニケーションをとともまめにあって、一人一人の性格をよく理解し、きちんと関係性を作っている前段があってこそ今です。

森 実務レベルでは、稗貫代表取締役が毎朝彼らに声掛けをして、週ごとにミーティングを開いています。

その中で「その仕事がどれだけ会社の数字に寄与しているか」と、数字を導入し「こういうわけでこれだけあなたは会社に貢献している」というところまで、今具体的に落とし始めているんです。

— 周りの社員のみなさんに何か変化はみられますか？

森 やっぱり優しくなりますよね。普段ぶっきらぼうな人間でも彼らに対して仕事依頼するときには丁寧に対応をする。

逆に周りの社員たちから彼らに対して「こうしてあげるべきではないんですか？」とあげてくれるので、相手の立場に立った親切的な意見が出てきます。

— 最後に次の立場の方々へメッセージをお願いします。

～就職を目指す方へ～

森 自分で限界を設けずに、まずは飛び込んでみたら？それからでもいいんじゃない？

稗貫 世の中の方々には「障害のある方」「ない方」とあまり意識していないのではないかと思う。どんどん世の中にでていく姿勢を持てば良いと思う。

～企業の方へ～

森 障害という枠は広がっていて、この先障害のある方は増えると思う。そうした人たちが活躍できる場を作る・育てるというのは社会的使命だと思うので、是非トライしてほしい。積極的に早めに取り組むことで社会における会社のあり方や責任を是非捉えてほしい。

稗貫 以前はボランティアの延長線上の役割という意識を多く持っていたのではないかと。私は今の3人「会社がつぶれたら仕事なくなる。自分たちの給料は自分たちで稼ぐ」という意識を持たせている。その方が、働きがいを見出す。ボランティア的な形でやって、彼らの芽をつむいでしまうことのないような考え方でやると良いのではないかと。

～障害のある方の就労を支援している方へ～

森 官公庁などで入札に出す業務内容をもう少し細かく切り出してくれると彼らへの業務の切り出しができる。
社会貢献だけで採用できる会社はそうそうない。キャッシュフローを外からとることをしないと社内だけでは回せない。現在、当社では彼らのできそうな業務を探しながら色々な入札を入れているが、その作業は他の社員が行うことになる。そして、業務は意外に色々なものが混ざっていて、簡単にはできない。「このパートは彼らにお願い」「このパートは僕らでやる」というものが多い。それでもやれるものは取ろうと動いている。ただ、それがすべての会社ができるのかなと考えると難しいと思う。

稗貫 仕事をしなくても見つけ出すことのできない方のためにも、色々な仕事のメニューがいっぱいあれば良いのだと思う。



働くみなさんにお話を聞きました。



スリープロエージェンシー株式会社のみなさん
(写真左上から)
齋藤さん、佐山さん、
佐藤さん、
(前列)代表取締役の稗貫さん

就職してよかったことは？

齋藤さん 自分の為にもなるし、会社にも貢献できそう。

お客様のためにも、私が役に立っていること。

佐山さん 一緒に働いている人たちがよくしてくれるので、働きがいがある。

佐藤さん 色々なことに挑戦できる。様々な人と関わることができて楽しい。3人とも障害が違うので、それぞれのやりやすい方法を考えたり、すごい充実感がある。

難しいことは？

齋藤さん やったことのない仕事やできなかった仕事。慣れるまで時間がかかることが大変。

佐山さん きちんとした仕事をしていかないといけない。

佐藤さん 障害が違うので、理解できることも違う。集中力も違う。その中でどうやって3人が一緒に仕事をするか、難しい。



スリープログループのみなさん、
ありがとうございました。

クローズアップ おつきな輪



仙台市障害者就労支援センターでは、就労移行支援事業所等の関係機関との連携を密に図り、就労を目指している障害のある方、または、現在働いている障害のある方の支援を行っています。

その一環として、機関誌で様々な就労移行支援事業所の特色や就労移行支援事業所から就労した方についてシリーズで紹介していきます。

障害福祉サービス事業所 スイッチ・センダイ



所長 小野彩香
(おのあやか) さんに
インタビューしてきました！ (写真右)

Q1: 利用者の方は精神障害の方が多く感じますが、他にはどのような障害の方が利用されていますか？

A: 基本的に精神疾患の方、心につまずきのある方に特化した支援をしています。

Q2: 就労訓練での基本方針について教えてください。

A: 「本人の希望を真ん中にした個別支援」です。本人の『こういう仕事に就きたい』という思いをベースに、本人のストレングスに焦点を当てています。

～1日のスケジュールの例～

Aさんが選んだある日のメニュー

- 10:00 メニュー決め
求人探索
- 12:00 スタッフAと探しにいきます
- 13:00 スイッチ・プログラム
スタッフCと面談形式で
- 14:00 PC訓練
分からない時にスタッフDに聞く
- 15:00 日誌記入
スタッフAと振り返り

利用者とスタッフで相談して月の方針を決め、それに基づいて今日の過ごし方を決めます。週2回程度様々なグループワークがあります。スタッフ全員で利用者の方と関わり、情報を共有します。パソコン練習は利用者同士で教え合ったりしていますよ。

写真は事業所内での活動の様子。



Q3: 独自の取り組みや力を入れている点を教えてください。

A: 個別支援です。その方が今、自信を感じることでできる機会、空間づくりを心掛けています。先日の例では、その方のために、学童保育のボランティアに行きました。提案した時の喜びの笑顔は忘れられません。本物の体験を大切にしており、プロや専門家から話を聞く機会や、企業での実習などを行っています。

その他にジョブコーチ経験を活かして、就労した方へのフォローアップにも力を入れています。その方、会社に合ったペースで職場訪問を行っています。今年度就業者13名にはお待たせしましたが、4月より「就業者の会」を定期的に行います。さらに、希望者には登録制で永久的にフォローアップを受けられます。

Q4: 仙台市障害者就労支援センターはどのような時に活用していますか？

A: 様々な企業の見学・体験実習の案内や利用者個別に求人を頂けてとても助かります。

Q5: 就労を目指している方へのメッセージをお願いします。



働けます！
大丈夫！

A: 趣味や好きな空間、雰囲気には、必ずあなたに合う働き方のヒントがあります。一番大切なのは、働きたいという切実な気持ちです。その気持ちがある方、一緒に仕事を勝ち取りましょう！

スイッチ・センダイ

住所：〒983-0852

仙台市宮城野区榴岡1-6-3

東口鳳月ビル602

電話：022-762-5852

開所日：月～金 開所時間：10時～16時

〈求職中の方へ〉〈就労支援をしている方へ〉

就職活動サポート講座を開催しています

希望に合わせたサポート講座を開催することで、はたらくための職業準備をお手伝いしています。

1・2月のサポート講座実施状況

就労移行支援事業所等向け

7回

《実施報告》

各施設の依頼内容に応じて、合計64名の方を対象に、実際に企業で働いている障害のある方からお話を聞いたり、障害のある方の就労に関する制度を学ぶ講座を行いました。



《募集案内》

各施設を対象に依頼内容に応じて「社会人としてのマナー」「企業見学会」「就労に関する支援サービス、制度について」「就労支援ノウハウ講座(支援者対象)」などを開催します。就職活動を行う準備として、ぜひご活用ください！

〈雇用を考えている企業の方へ〉 〈求職中の方へ〉〈就労支援をしている方へ〉 就職活動しています

様々な企業の職場を見学・実習し、自分に合った仕事を探します。

□企業見学会

1月 実施数1社 参加者15名 見学内容：ゴミ分別作業

2月 実施数3社 参加者28名 内定者2名 見学内容：介護・ゴミ分別作業・清掃

□企業実習

1月 実施数1社 参加者2名 実習内容：午前清掃・午後クリーニング補助

2月 実施数4社 参加者16名 内定者3名 実習内容：ゴミ分別作業・清掃・事務

《募集案内》

企業見学会・企業実習を行いたい企業の方、参加したい求職中の方、是非、仙台市障害者就労支援センターまで。(左記は1・2月の実施内容です。)



〈就労支援をしている方へ〉

連絡会議を開催しています

各種連絡会議を開催することで、仙台市内の就労移行支援事業所のスキルアップ、障害のある方の就労を支援するためのネットワーク作りを行っています。

第3回ジョブコーチ連絡会議開催しました！

日時：1月19日(木)

場所：泉区役所本庁舎5階512会議室

参加者：6名



①講話「障害者雇用の実践～採用から職場定着まで～」

面接～実習～採用～定着までの流れの中でのポイントや苦労した事など、実際に現場で活躍されている担当者からお話を聞き、雇用する側の視点を学びました。

②質疑応答 講演の感想及び、今後の支援に活かす事が出来るポイント等の意見交換。

《開催案内》

□就労先・実習先開拓担当者連絡会議

⇒第1回を4月、第2回を5月、第3回を6月に開催します。開拓担当者の方はぜひご参加ください。

□視覚障害者就労支援連絡会議

⇒第1回を6月中旬に開催します。参加申込みは、仙台市障害者就労支援センターまで。

その他にも様々な連絡会議を開催します。是非ご参加ください。



〈市民のみなさんと一緒に考えます〉

障害のある方の就労サポートネットワークセミナーを開催しました

「障害のある方が働くことについて、市民それぞれの立場でどのように応援できるか、一緒に考えよう」ということに、仙台市障害者就労支援センターでは、取り組んでおります。



今回は「自分らしく働き続けるために」をテーマとして企業、支援者、働く障害のある方をお招きしシンポジウムを行いました。

(平成 24 年 3 月 17 日
仙台市福祉プラザにて)



コーディネーター

東北福祉大学 教授 三浦 剛氏

その人に合った仕事、その中では自分らしさを発揮しやすい。そして、信頼関係があれば、特別な支援はなくてもやっていけるということは会社として当たり前のこと。連携で仕事をする。多様性を受け入れて集団を作る。そういう集団は

何かあったときにとても強い。そういう視点・方向性で就労支援は進むべきではないかと感じた。

シンポジスト(支援者)

仙台市自閉症相談センター 主任相談員 西田 有吾氏

自分らしさは「自分を知る」ことで分かる。そして、「自分らしく働く力」を身につけるためには「自分で考える・選ぶ」「責任がとれる」「他人を理解する」力が必要。

障害の有無を問わず、自分らしく働き続けるために必要なことは同じ。

一歩先の「働く」を目指してひとりひとりができることを考えよう。



シンポジスト(働く障害のある方)

警備会社勤務 柳 広樹氏

広汎性発達障害と診断を受けた。私の障害特性は「先を想像・予測することが苦手」で、一つの考えにこだわり、そのことを何度も考えたり、集中し過ぎて周りへの配慮が欠けてしまうこと等があり、『偏屈』『職人気質』という風に周囲から見られる。

今回発表しようと思った理由は自分の「理解者を増やしたい」と思ったから。理解者を増やすことは長期戦になることは分かっている。だが働き続けるためには職場での信頼関係が必要であり、自分を理解してもらう努力をしなければならない。

私は「働き続けながら偏屈でありたい」。

自分の偏屈さを「オープン」にすることで、自分で自分を「受容」し、周りに自分を「理解」してもらう機会になるのではないだろうか。



シンポジスト(企業)

株式会社アップルファーム
代表取締役 渡部 哲也氏

「六丁の目農園」というレストラン等を運営し、障害のある方を 45 名雇用している。

福祉施設も運営しており、利用者から一般雇用にな

った方もいる。私の考える「雇用」とは、「企業が如何にその人に合った環境を作ってあげられるか」「長所を如何に発見して周りがそれを伸ばしていくか」。これは企業経営にも同様の事が言える。

接する人によって「障害」は作られる。周りがあきらめれば、それで終わり。震災で得た絆を大切に「誰かのために」何かをする。

企業として社会貢献ができればと思っている。

仙台市障害者就労支援センター利用案内

■ 利用時間：

	月曜日～金曜日	土・日・祝
窓口での相談	8：30～17：00	休み
電話相談・移動相談	8：30～19：30	8：30～17：00

※ 土日祝日は各区にある障害者福祉センターなどにおいて「移動相談窓口」を設けます。

※ 移動相談の日程は、市政だよりに掲載しています。

■ 相談方法：来所・電話・FAX・Eメールにて受け付けております。

※ 来所は原則として予約制です。事前にセンターまで希望日時をお知らせください。

こんな相談をお受けします。



〈障害のある方〉

- 働きたいのですが、何をどうしたらいいかわかりません。
- 仕事はどうやって探したらいいですか？
- 仕事を辞めてしまって、どうしたらいいかわかりません。
- 仕事がうまくできなくて困っています。

〈企業・事業所の方〉

- 障害のある方を雇用しようと思うのですが、どんな配慮が必要ですか？
- 障害のある方を雇用する際に利用できる制度はありますか？
- 障害のある方の雇用を続けるための工夫や環境整備の仕方を教えてください。

■ 費用：相談・支援サービスは無料です。

※ 実習等にかかる交通費、食事代等は実費負担があります。

■ 対象となる方：仙台市にお住まいの15歳以上の障害のある方で就労希望、もしくは就労中の方。

※ ご家族・事業主様からの相談もお受けします。 ※ 障害者手帳の有無は問いません。

■ アクセス：



編集後記

震災から一年が経ちました。震災当時は、自分が一年後に震災前と同じように仕事ができるとは思いませんでした。

驚きや嬉しさがありつつも、今も震災前の状況に戻っていない方がたくさんいらっしゃることに胸が痛みます。

日々仕事ができることに感謝をしながら、1人でも多くの方が働くことができるよう、これからも支援を続けてまいります。



発行：仙台市障害者就労支援センター

(指定管理者：財団法人仙台市障害者福祉協会)

住所：〒981-3133

仙台市泉区泉中央2丁目1-1

泉区役所東庁舎5階

電話：022-772-5517

FAX：022-772-5519

Eメール：info@sendai-wsc.jp

H P：http://www.sendai-wsc.jp